

## 西京病院

院長  
松井 亮好 氏

## 機能性ディスペプシア

されなければ機能性ディスペプシアと診断します。

Q 治療について。

A 薬物治療として、

胃酸の分泌を抑制する薬や胃の運動機能を良くする薬、漢方薬などがあります。心理的な要因が考えられるのであれば抗不安剤や抗うつ剤を投与します。ピロリ菌感染があれば、除菌すると症状が改善することがあります。ただ、人によっては

## ストレスなど原因さまざま

Q 機能性ディスペプシアとは。

A みぞおちの痛みや食後の胃もたれといった症状が慢性的に続くにもかかわらず、内視鏡など検査ではつきりした異常がない状態です。重篤化したり、直接命に関わる病気ではありませんが、本人にとってはQOL(L(生活の質)が下がり悩みている方が多くいます。診断は、まず内視鏡検査を行います。嘔煙や飲酒、ピロリ菌の感染なども原因となる可能性があります。日本ではこのようない状況で、若年から高齢者まで幅広く見られます。診断は、まず内視鏡検査を行います。器質的疾患、金属性疾患、代謝性疾患がないということまで幅広く見られますが前提で、他に異常が見

## 宇治武田病院

副院長  
宮嶋 敬 氏

## 逆流性食道炎

す。治療としては、まずは食べたものや酸が逆流しないよう腹八分目と食べてすぐに寝転ばないよつ氣を付けてもらいます。また1日1、2回、胃酸を抑えるプロトンポンプ阻害薬(PPPI)を服用してもらいます。それでも症状が改善しない場合、外科手術を行います。保険適用外ですが、最近は施設によっては内視鏡治療が可能です。

## 高脂肪食を控え腹八分目で

Q 原因と症状は。

A 逆流性食道炎と口臭の感染率が減り、その分、胃酸の分泌量が多くなることで罹患が増えています。症状はむかむかするといった胸焼けや胃酸が上がってくる呑酸があります。まれに胸痛を訴える方もいます。でも発症します。高齢者す。

Q 日頃気を付けることは。

A 夕食は寝る2時間以上前に取るようにします。また1日1、2回、胃酸を抑えるプロトンポンプ阻害薬(PPPI)を服用してもらいます。それでも症状が改善しない場合、外科手術を行います。保険適用外ですが、最近は施設によっては内視鏡治療が可能です。

健康づくり8  
通信 正しく知ろう 病気の知識

人間活動のエネルギーとなる食事。私たちが食べた物は、口から肛門まで続く1本の長い消化管を通る中で消化、吸収されています。日々を健康に過ごすためには、3食バランスよく摂取し、腹八分目を心掛けることが大切です。最終回となる第8回「消化器の病気」では、機能性ディスペプシア、大腸がん、逆流性食道炎についてそれぞれ専門の医師に聞きました。

## Q &amp; A ◆専門の医師がお答えします◆

## 消化器の病気

## 京都博愛会病院

外科部長  
北俊 氏

Q 早期発見について。  
A 予防としては食物繊維を多く取り、禁煙、飲酒は控えてください。早期発見のためには、毎日必ず自分の健康状態のチェックを兼ねて便の色や状態を確認してください。

## 肛門出血と大腸がん

います。治療は病変が粘膜層にとどまる早い段階で発見できれば大腸内視鏡で切除できます。手術後の転移や再発は3年内に起こることが多く、術後5年間再発や転移がなればほぼ完治したと考えられます。

## 食物繊維多く取つて予防を

肛門出血について。原因是大腸がんのほかに、痔核、裂孔、感染性胃腸炎、大腸憩室炎、大腸炎などがあります。大腸がんの場合、粘膜でできた病変が便通で傷ついたり、潰瘍化したりして出血しほぼ痛みはありません。肛門に近い直腸に病変があれば鮮血を伴う便、それより奥の結腸であれば黒ずんだ便が出ます。進行すると便が細くなったり、便秘や下痢を繰り返したり、嘔吐、腹痛を繰り返したり、嘔吐、腹

門鏡で見える範囲に腫瘍や出血があると、大腸内視鏡検査を行なうところにあれば、直腸診査のところにあれば、直腸診査と肛門鏡で診断できます。肛門鏡で見える範囲に腫瘍や出血となるものがないのに下血や便潜血検査が陽性であるときは、大腸内視鏡検査を行なうことがあります。治療としては、直腸診査と肛門鏡で診断できます。肛門鏡で見える範囲に腫瘍や出血となるものがないのに下血や便潜血検査が陽性であるときは、大腸内視鏡検査を行なうことがあります。

痛、腸閉塞などの症状が出来ますが、初期症状はほぼあります。発生はボリープのがんには、毎日必ず自分の健康状態のチェックを兼ねて便の色や状態を確認してください。40~50代で発症する人が増えているので、40歳を超えて40~50年ごとに大腸内視鏡を行なうことがあります。直腸診査と肛門鏡で診断できます。肛門鏡で見える範囲に腫瘍や出血があると、大腸内視鏡検査を行なうことがあります。治療としては、直腸診査と肛門鏡で診断できます。肛門鏡で見える範囲に腫瘍や出血となるものがないのに下血や便潜血検査が陽性であるときは、大腸内視鏡検査を行なうことがあります。